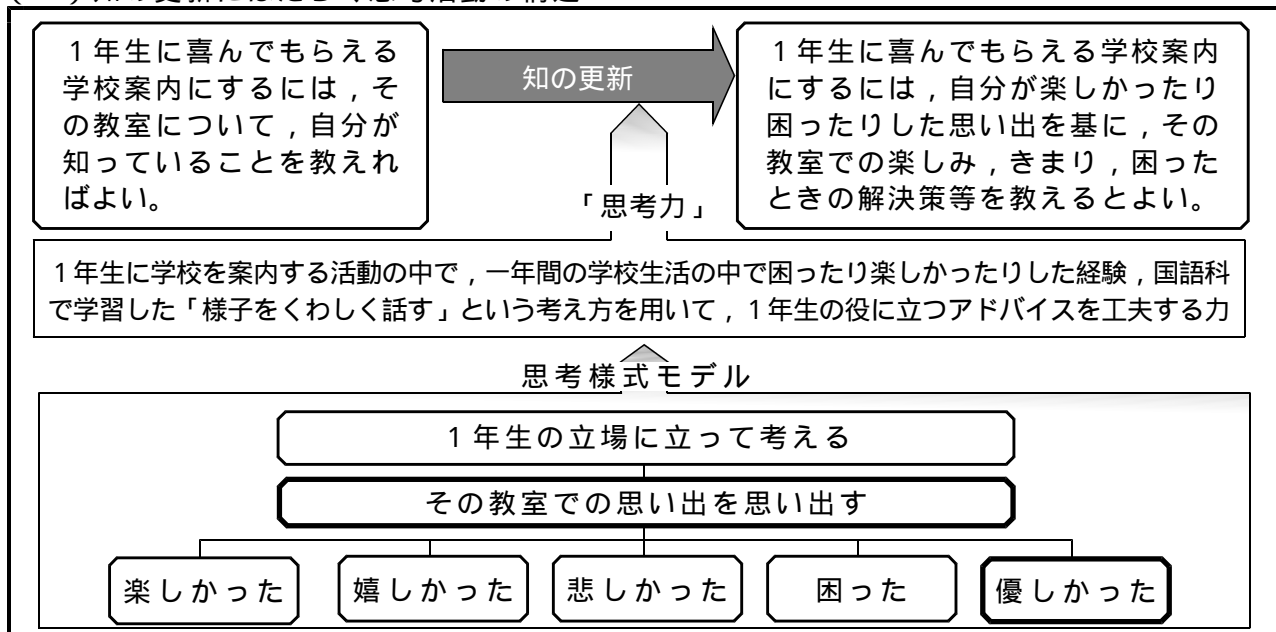


4 言語活動を充実し、思考様式を顕在化する学習指導の実際

「ともだちいっぱい なかよくしようね」 - にこにこ学校案内 - (第2学年)

(1) 知の更新にはたらく思考活動の構造



2年生の子どもたちは、「学校案内では、その教室について自分が知っていることを教えれば、1年生に喜んでもらえる」と考えている。しかし、1年生に喜んでもらうには、1年生にとって役に立つことを教える必要がある。それは、「自分はこうして遊んだ」「自分は困ったとき、こうして解決した」と、自分の経験を基にした楽しみ方や困ったときの解決策等である。このような認識へと「知の更新」を行うためには、上記「思考力」が必要である。そのためには、まず、どのようなアドバイスが役に立つのかを、1年生の立場に立って考える必要がある。自分が1年生だった頃のことを思い出し、1年生がその教室でどのような困難や喜びに遭遇するかを想像することができれば、役に立つアドバイスが工夫できるようになる。と考える。

(2) 思考活動を促す開発教材

「保健の先生はやさしいよ」という抽象的な説明と、「けがをしたとき、消毒してくれたり絆創膏を貼ってくれたりしたよ」という具体的な思い出を結び付けて、アドバイスを考える学習

1年生に学校を案内する際に伝えるべきことは、「自分が困ったときにどのようにして解決したのか」「その教室ではどのような楽しいことがあるのか」といった具体的な思い出を基にしたアドバイスである。「楽しいよ」「やさしいよ」と抽象的な説明だけで終わるのではなく、1年生がこれから遭遇するであろう困難や喜びを想定した、より1年生の役に立つ具体的なアドバイスへと発展する学習を設定した。

「言語活動の充実」の視点から

1年生にどのようなことを伝えればよいのかを話し合うと、多くの子どもたちが、特別教室にある物やきまり、そこにいる先生のことだけを挙げる。そこに、自分がどう関わってきたのかという具体的な思い出へと視点を転換・拡充し、思い出を付け加えて説明できれば、1年生の役に立つアドバイスになる。子どもたちが見つけた「保健の先生はやさしいよ」という情意的な気付きと、「消毒をしてくれたよ」という具体的な思い出を取り上げ、それらを結び付けるよさを実感させることによって、表出を促す言語活動を充実させたい。

「思考様式の顕在化」の視点から

言語活動の際に表出された反応の核「けがをしたとき消毒してくれたよ。」を基に、「ぼくは、頭を打ったとき冷やしてくれたよ。」「私は、とげをぬいてくれたよ。」等、多くの反応が表出される。そこで、「みんなが付け加えようとしていることは、どのようなことか。」と問いかけると、子どもたちは、「してくれたこと」「思い出」等、自分の言葉で表現するであろう。そこで、やさしさを伝えるためには、「やさしくしてくれた思い出を思い出すとよい」という「思考様式の顕在化」に導きたい。このようにして習得した思考様式は、他の教室の説明を考える際にも有効に働き、1年生の役に立つアドバイスを考える手がかりとなるであろう。

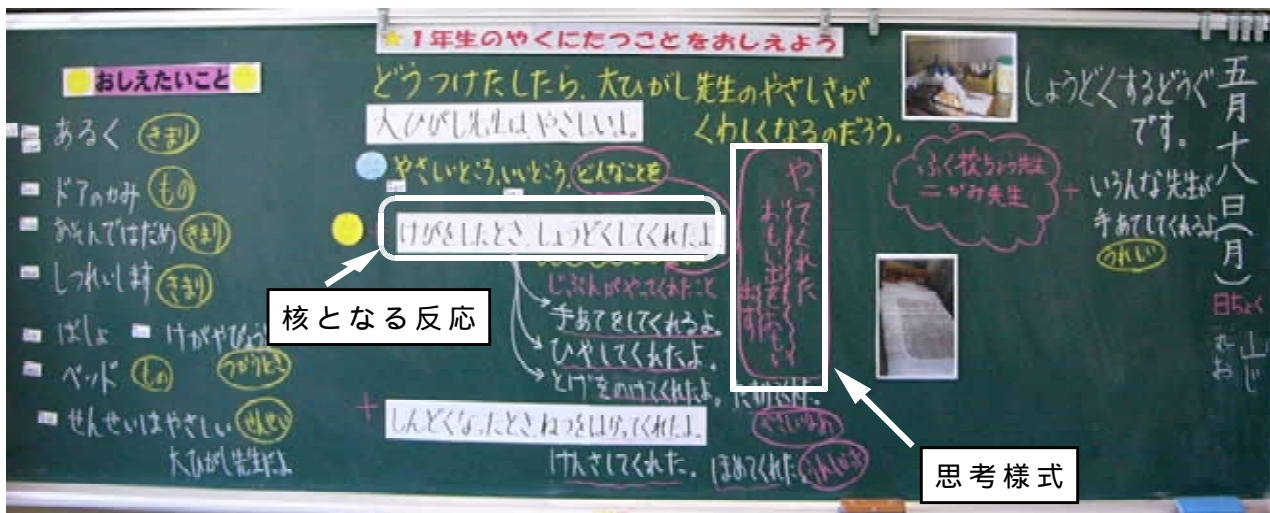
(3) 学習指導の実際

授業の概略

< 本時の学習指導 >

学 習 活 動	思考様式の顕在化につながる主な反応
<p>1 前時の学習を振り返り、自分が教えたことと1年生の役に立つこととのズレを捉える。</p>	<p>{ 「保健の先生は、やさしい先生です。」で、1年生に保健の先生のやさしさが伝わるのかな。</p> <p>{ 伝わる } { あまり伝わらない }</p> <p>{ もう少しくわしくしたら、伝わると思うよ。</p> <p>{ 何を付け加えればよいのだろう。</p>
<p>なにをつけたしたら、ほけんの先生のやさしさが、くわしくなるのだろう</p>	
<p>2 けがをしたときやしんどくなったときのことを書いてある反応を取り上げ、やさしさがくわしくなるためには、何を書き加えればよいかを話し合う。 < 思考様式を顕在化する言語活動 ></p>	<p>{ けがをしたとき、消毒してくれたよ。(核となる反応) }</p> <p>{ やさしさがくわしく書けているね。</p> <p>{ けがをしたときのことを思い出せばくわしくなるんだ。 }</p> <p>{ しんどくなったとき、熱を計ってくれたよ。</p> <p>{ しんどくなったときのことを思い出してもいいんだ。 }</p> <p>{ ぼくなら、頭を打ったとき冷やしてくれたことを書き加えるよ。だって、うれしかったから。</p> <p>{ うれしかった思い出を思い出せば、くわしくなるんだな。 }</p> <p>{ 思い出を思い出せば(思考様式の顕在化)、やさしさやうれしさがくわしくなるね。 }</p>

< 本時の板書 >



「思考様式を顕在化する言語活動」の詳細

学校探検後に書いた「保健の先生はやさしいよ」という抽象的な説明では、やさしさが十分に伝わらないことに気付き、何を付け足せばよいのかを話し合う中で、「消毒してくれたよ」等の具体的な思い出を結び付けることによさが分かり、思考様式を顕在化する言語活動

学校探検後に多くの子どもが書いた「保健の先生は、やさしいよ」という学校案内カードを取り上げ、この説明でやさしさが1年生に伝わるかどうかをたずねると、ほとんどの子どもが伝わらないと答えた。そして、伝わりやすくするにはどうすればよいかを話し合う中で、「何を付け加えたら、保健の先生のやさしさがくわしくなるのだろう」という学習問題が生み出された。

しかし、どう考えればよいのかが分からず立ち止まってしまったため、案内カードを振り返る場を設定した。再び話し合う中で、「けがをしたとき、消毒してくれたよ。」という意見が出された。すると、「保健の先生がどのようなことをしてくれたかが分かるからいい。」「自分にやってくれたことを言っているのがいい。」等の意見が発表された。「これを付け加えたら、やさしさが伝わるかな？」と問うと、全員が賛成し、考える手がかりが共通理解された。するとさらに、「けがをしたとき、テープを貼ってくれた。」「鉄棒で頭を打ったとき、冷やしてくれた。」「大きなとげが刺さったとき、【思考様式を発表する子ども】抜いてくれた。」等、具体的な思い出が次々と表出された。



そして、「付け加えたことは、どのようなことか？」と問うと、「思い出」「自分にしてくれた思い出」等の反応が表出され、「その教室での思い出を思い出す」という思考様式を顕在化していった。

	授業前の記述	授業後の記述
高 児	部屋名, きまり・マナー, 先生の名前	頭を打ったら冷やしてくれるよ。
高 児	部屋名, けが熱など用途, きまり・マナー	けがをしたら手当をしてくれるよ。
高 児	きまり・マナー	とげが刺さった時, 手当をしてくれたよ。
低 児	部屋名, 先生の名前・やさしかった思い出	けがをしたら消毒してくれるよ。
低 児	きまり・マナー	けがをしたら保健室に行くんだよ。
低 児	きまり・マナー, 先生の名前	気持ち悪い時, ベッドに寝させてくれたよ。

【抽出児の様相：「保健室を案内するとき、どのようなアドバイスをするのか」に対する答え】

授業後の記述から、抽出児は6名とも思考様式を習得し、それを生かしてアドバイスを考えられていた。

(4) 検証データを通して ～量的検証から～

本実践の前後でテスト(10点満点)を行い、「思考力」の伸びを検証した。その結果、平均値で1.1点向上した。この差についてt検定を行ったところ、有意差が見られた〔 $t(36)=3.51, P<.01$ 〕。一方、実施直後と1か月後のテストの結果を比較したところ、平均点は0.36点減少、そしてこれは5%有意であるという結果になった〔 $t(35)=2.17, P<.05$ 〕。

このことから、本実践を通して「思考力」の向上は図られたものの、その定着の面で課題が残ったと言える。

(5) 考察

以上の結果から、「自分がしてもらったことを思い出す」という思考様式は、習得できたと言える。それは、物や人等、目に見えるものから、自分の思い出へと視点を転換・拡充したことによって、「自分ならこのような思い出があるよ」と伝えたいことが明確になり、言語活動が活性化したことが理由として挙げられる。

しかし、授業後のリフレクションでは、思い出を基に保健の先生のやさしさを詳しく伝えることが、1年生の役に立つアドバイスにつながるという共通理解が不十分だったのではないかという課題が挙げられた。十分な吟味を行うことによって、さらに定着したと考えられる。

実際の学校案内では、「職員室の担任の先生の机はここだよ。用があるときや困ったときは、来るといいよ。」「図書室で本を探るときは、『絵本』や『どうぶつ』と書いた看板を見ると速く見つけられるよ。」等、物や人と思い出を結び付けたアドバイスを工夫できていた子どもが多く見られた。